

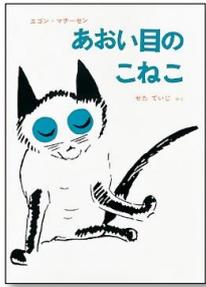
しょうがっこう
～小学校1・2年生編～
おんせいへん

いいね!

ほん
の本だな



やまなしけんりつとしょかん
山梨県立図書館
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY



ものがたりの本

『あおい目のこねこ』

エゴン・マチーセン/さく・え せたていじ/やく
福音館書店 1965年
青い目の子ねこが、ねずみのくにをさがしに出かけました。ねずみのくにまでのみちには、いじわるなねこやこわい犬がいます。たいへんなことがあっても、子ねこはそのたびに立ちなおって、まえへすすんでいきます。



かがくの本

『アリからみると』

桑原隆一/文 栗林慧/写真
福音館書店 2004年

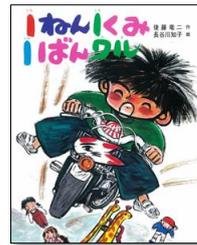
わたしたちにんげんとくらべると、アリはとっても小さいですね。アリの目からは、ほかの虫や草花がどれくらいの大きさに見えるでしょうか。アリになったつもりで、のほらに出てながめてみましょう。



ものがたりの本

『アンディとらいおん』

ジェームズ・ドーハーティ/ぶんとえ
むらおかはなこ/やく 福音館書店 1961年
アンディは、としょかんでかりたライオンの本にむちゅうです。おじいさんからライオンがりのはなしもききました。ライオンであたまがいっぱいのアンディは、あさ学校へいくみちでへんなものを見つけました。

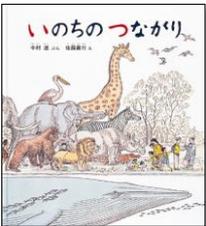


ものがたりの本

『1ねん1くみ1ばんワル』

後藤竜二/作 長谷川知子/絵
ポプラ社 1984年

ぼくのクラスのくろさわくんは、じてんしゃでぼくたちをおいかけてまわしたり、べんきょう中にかみひこうきをとぼしたり、テストのじかんなのにけしゴムであそんでいたり…1ねん1くみで1ばんげんきで、いたずらっこで、ワルです。



かがくの本

『いのちのつながり』

中村運/ぶん 佐藤直行/え
福音館書店 1991年
ちきゅうには、にんげんや、ぞうやきりん、草花や木など、いろいろなしゅるいのいきものがいますね。いきもののかをしらべてみると、みんな「いでんし」でつながっていることがわかります。



ものがたりの本

『うさぎのくれたバレエシューズ』

安房直子/文 南塚直子/絵
小峰書店 1989年

バレエがじょうずになりたい女の子のところに、ピンクいろのバレエシューズがとどきました。はいてみたところ、からだがるなくなったようです。山のほうへいくと、大きなさくらの木の中に、うさぎがはたらくつやがありました。



かがくの本

『うまれたよ！セミ』

新開孝/写真 小杉みのり/構成・文
岩崎書店 2013年
セミは、なつに、たまごを木のう中に生みつけます。たまごからようちゅうがかえるのは、つぎの年になってからです。そのあとゆっくり大きくなります。せいちゅう（おとな）になるまで、どんなふうにかわっていくでしょうか。



ものがたりの本

『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット/さく
ルース・クリスマン・ガネット/え
わたなべしげお/やく 福音館書店 2010年

エルマーは、としよりののらねこから、どうぶつじまでつかまり、はたらかされている子どものりゅうのことをききました。エルマーは、りゅうをすくいだすため、ふねにのせてしまに出かけていきました。

『おさかないちば』

加藤休三/作 講談社 2013年



しゃかいの本

ぼくはすしやで、タイラギという貝が気になりました。タイラギはいちばで見られると、すしやのたいしょうにおそわりました。いちばにいきたくなかったぼくは、あさ早く、たいしょうとでかけることにしました。

『おしゃべりなたまごやき』

寺村輝夫/作 長新太/画
福音館書店 1972年



ものがたりの本

王さまが、ぎゅうづめになっているにわとりごやのかぎをあけると、にわとりがそとに出てしまいました。そうとはしらず、けらいがはんに人をさがしますが、王さまはだまっています。ところが、王さまがごはんにたまごをたべようとすると…。

『おともだちにナリマ小』

たかどのほご/作 にしむらあつこ/絵
フレーベル館 2005年



ものがたりの本

ある日、やまびこ小学校になぞのてがみがとどきました。てがみには「おともだちにナリマ小。木三二、二田もノヨリ」とかいてあります。いったいだれからのてがみでしょうか？

『かさぶたくん』

やぎゅうげんいちろう/さく
福音館書店 2000年

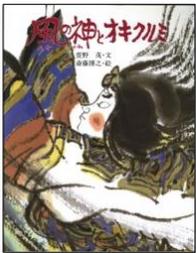


かがくの本

ころんだり、すりむいたりして、ちがでると、そのあとにかさぶたができます。かさぶたは、いったいなにできているとおもいますか？なぜ、かさぶたができるのかしていますか？かさぶたのことがわかるえほんです。

『風の神とオキクルミ』

萱野茂/文 斎藤博之/絵
小峰書店 1999年

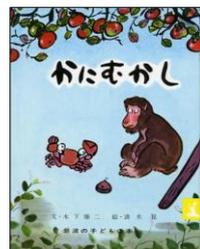


ものがたりの本

風の神さまのピカタカムイは、村人たちをおどかさうと、はげしい風をおこして村をこわしました。すると、ピカタカムイのいえに、あるわかものがやってきて、つめたい風とあつい風でばつをあたまました。アイヌみんぞくのおはなしです。

『かにむかし』

木下順二/文 清水崑/絵
岩波書店 2006年

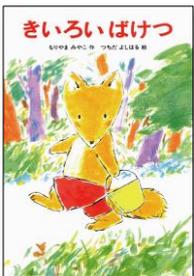


ものがたりの本

かにがそだてたかきに、みがりなりました。かきのみをとろうとしていると、やってきたさるにかきをたべられ、そのうえ青いみをぶつけられてしんでしまいました。子がにたちは、しかえしのために、なかまをあつめます。うまいくくでしょうか。

『きいろいばけつ』

もりやまみやこ/作 つちだよしはる/絵
あかね書房 1985年



ものがたりの本

きつねの子が、ピカピカのきいろいばけつを見つけました。だれかのわすれものでしょうか。いっしゅうかんまって、だれもとりにこなければ、じぶんのばけつにしようときめました。さて、いっしゅうかんご、ばけつは…？

『きえた犬のえ』

マージョリー・W・シャーマット/ぶん
マーク・シーモント/え 光吉夏弥/やく
大日本図書 2014年



ものがたりの本

ぼくは、めいたんていネートです。ある日、ともだちのアニーがいた、犬のフアングのえがなくなっていました。犬のえはいったいどこにいったしまったのでしょうか。

『ごきげんなすてご』

いとうひろし/さく 徳間書店 1995年



ものがたりの本

おとうとができてから、おかあさんはあたしにやさしくしてくれません。そこであたしは、すてごになって、もっとすてきなうちにひろわれるのをまつことにしました。すると、ほかのどうぶつも、すてごになりたいとあつまってきました。

『これはのみのぴこ』

谷川俊太郎/作 和田誠/絵
サンリード 1979年



ものがたりの本

「これは のみの ぴこ」「これは のみの ぴこの すんでいる ねこの ごえもん」。つぎに出てきたあきらくんはごえもんの…？ 出てくるみんながつながっていく、たのしいことばあそびのえほんです。こえに出してよみましょう。

『こんとあき』

林明子/さく 福音館書店 1989年

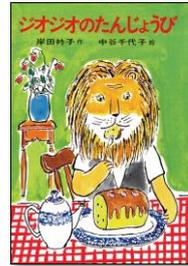


ものがたりの本

きつねのぬいぐるみのこんは、おばあちゃんにたのまれて、あきとずっといっしょにくらしています。こわれたこんのうでをなおしてもらうために、ふたりでおばあちゃんのをいかにむかいますが、とちゅうでこまったことがおきます。

『ジオジオのたんじょうび』

岸田衞/作 中谷千代子/絵
あかね書房 1970年

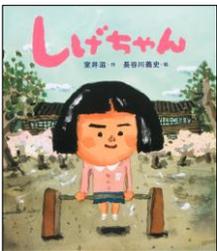


ものがたりの本

せかいでいちばんつよいライオン、ジオジオは、あまいおかしがだいすきです。ジオジオは70さいのたんじょうびのために、とくべつ大きくて、とくべつおいしい、木のみやくだものをたくさんつかったケーキをちゅうもんしました。

『しげちゃん』

室井滋/作 長谷川義史/絵
金の星社 2011年



ものがたりの本

女の子のしげるは、男の子みたいなじぶんの名まえをかえたくて、おかあさんにたのみましたがだめでした。けれども、おかあさんは、なぜしげると名づけたのかおしえてくれます。名まえにはおやのねがいがこめられていました。

『重 力 っ て ……』

ジエイソン・チン/作 竹内薫/訳
偕成社 2017年



かがくの本

重力は、どんなものにもはたらいている、ひっぱる力です。ひっぱる力のつよさは、おもさでかわります。重力がもしなかったら、ちきゅうはたいへんなことになってしまうのです。

『しょうたとなつとう』

星川ひろ子、星川治雄/写真・文
小泉武夫/原案・監修 ポプラ社 2003年



しゃかいの本

なつとうぎらいのしょうたに、おじいちゃんがだいのそだてかたを見せます。土にまいた青だいがめを出して、大きくなるとえだまめになり、あきにはだいずになりました。それから、だいずの「とっておきのへんしん」がはじまります。

『世界のあいさつ』

長新太/さく 野村雅一/監修
福音館書店 1989年



しゃかいの本

せかいには、いろいろなあいさつのしかたがあります。たとえば、インドの人があいさつをするときは、手をあわせて「ナマステ」といいます。みなさんも、日本とはちがうあいさつをさがすたびにでかけてみませんか？

『たんたのたんけん』

中川李枝子/さく 山脇百合子/え
学研プラス 2021年



ものがたりの本

たんたのたんじょうびにふしぎなちずがとどきました。ゴールはジャングルです。たんたはたんけんに出かけることにしました。すると、ひょうの子バリヒがたんたのあとをずっとついてきます。たのしいたんけんのおはなしです。

『たんぽぽ』

平山和子/ぶん・え 北村四郎/監修
福音館書店 1976年



かがくの本

このえほんは、みただけではわからないたんぽぽのひみつをおしえてくれます。ねっこや花のしくみ、ふゆのつめたいかぜからはっぱをまもるわざ、花がわたげにへんしんしてみをとばすしくみもわかります。

『ちいさいおうち』

バージニア・リー・バートン/ぶんとえ
いしいもこ/やく 岩波書店 2019年



ものがたりの本

ちいさいおうちは、みどりがいっぱいのおかの上で、しあわせにくらしていました。ところが、いつのまにかどうろやビルにかこまれ、すっかりけしきが変わってしまいました。しょんぼりしているおうちのもとにやってきたのは…。

『時計づくりのジョニー』

エドワード・アーディゾーニ/作 あべきみこ/訳
こぐま社 1998年



ものがたりの本

ジョニーはものをつくるのが大好きな男の子です。ある日、大どけいをつくろうとおもいつきました。みんなからは、できるはずがないとおもわれますが、ジョニーはあきらめません。さて、大どけいはできあがるのでしょうか。

『どこからきたの？おべんとう』

鈴木まもる/作・絵 金の星社 2020年



しゃかいの本

きょうはのはらでおえかきです。おひるになったので、おべんとうのふたをあけると、おにぎりに、たまごやき、アジフライ、ポテトサラダが入っています。「おいしそう！」「いただきまーす」。このおべんとう、どこからきたのでしょうか？ なぞときのたびにしゅっぱつします。

『なんみんってよばないで。』

ケイト・ミルナー/さく こでらあつこ/やく
合同出版 2019年



しゃかいの本

おかあさんが「このまちを できいかなくっては ならないの」といいました。いますんでいるいえから、あんぜんなばしょまで、あるいてにげます。なにをもっていけばいいのでしょうか？ よそのくにのことがわかるのでしょうか？

『バナナのはなし』

伊沢尚子/文 及川賢治/絵
福音館書店 2013年

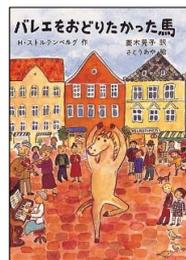


かがくの本

きいろいバナナをれいぞうこに入れてみると…？ いっしゅうかんごにはくろくなりました。なぜでしょう。この本では、バナナがくろくなるりゅうや、どうやってそだつのかなど、バナナのひみつがわかります。

『バレエをおどりたかった馬』

H・ストルテンベルグ/作 菱木晃子/訳
さとうあや/絵 福音館書店 1999年



ものがたりの本

いなかでくらしていたうまはある日、たびのバレエだんにであいます。そのおどりを見て、バレエが大好きになったうまは、バレエダンサーをめざすことにしました。うまは、じょうずにおどれなくてもあきらめず、ゆめにちょうせんします。

『**番ねずみのヤカちゃん**』

リチャード・ウィルバー/さく 松岡享子/やく
大社玲子/え 福音館書店 1992年



ものがたりの本

ドドさんのいえにすむ子ねずみのヤカちゃんは、とてもこえが大きいので「やかましやのヤカちゃん」とよばれています。あるときヤカちゃんは、ドドさんにこえをきかれ、ねずみとりやねこをつかって、つかまえられるようになりますが…。

『**1つぶのおこめ**』

さんすうのむかしばなし』

デミ/作 さくまゆみこ/訳
光村教育図書 2009年

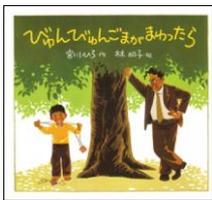


かがくの本

おこめがとれない年に、おこめをひとりじめして、人びとにわけようとしないうさまがいました。そこで、かしこい女の子ラーニが、王さまにあるおねがいをお願いします。さんすうをつかって人びとをたすけた女の子のおはなしです。

『**びゅんびゅんごまがまわったら**』

宮川ひろ/作 林明子/絵
童心社 1982年



ものがたりの本

かえで小学校のあそびばに、かぎがかけられました。みんながこうちよう先生に、あけてほしいというと、先生はびゅんびゅんごまをとり出しました。こまをまわせたら、たのみをきいてくれるというのです。

『**ふたりはともだち**』

アーノルド・ローベル/作 三木卓/訳
文化出版局 1972年

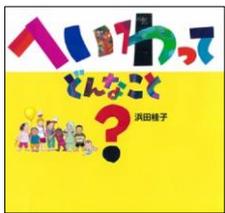


ものがたりの本

おたがいのことが大すぎながまくんとかえるくんの5つのおはなしです。ある日、かえるくんはがまくんにおいてがみをかきましたが、がまくんのいえにはなかなかとどきません。どうしたのでしょうか。（「おてがみ」より）

『**へいわってどんなこと?**』

浜田桂子/作 童心社 2011年

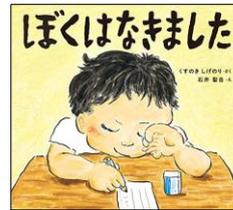


しゃかいの本

この本には、へいわだとおもうたくさんのおぼめんが出てきます。たとえば、「せんそうをしない」ことや、「だれでもごはんがたべられる」ことです。みなさんは、どんなことだとこたえますか？ かんがえてみてください。

『**ぼくはなきました**』

くすのきしげのり/さく 石井聖岳/え
東洋館出版社 2019年



ものがたりの本

がっこうで「じぶんのいいところ」をかくことになりました。みんなのいいところは見つけられるのに、ぼくにはいいところがありません。そうたは先生にそういって、なきそうになりました。すると、先生は…。

『**まほうのコップ**』

藤田千枝/原案 川島敏生/写真
長谷川摂子/文 福音館書店 2012年



かがくの本

とうめいなガラスのコップに水を入れたら、まほうのコップのできあがりです。コップのうしろにいちごやフォークをおいて、まえから見ると、とてもふしぎなことがおこります。みなさんもためしてみましよう。

『**みえるとかみえないとか**』

ヨシタケシンスケ/さく 伊藤亜紗/そうだん
アリス館 2018年



ものがたりの本

ぼくはうちゅうひこうしです。ある日、うしろにも目がある人のほしにきました。そこで出あった、生まれつきぜんぶの目が見えない人は、ぼくとせいかいのかんじかたが、ぜんぜんちがいました。ヒントは「おと」「におい」「手ざわり」です。

『みしのたくかにと』

松岡享子/作 大社玲子/絵
こぐま社 1998年



ものがたりの本

ふとつちよお婆さんは、にわにたねをまきました。なんのたねかわかりませんが、たのしみです。いたにあることばをかいて、たねのそばへ立てました。たねがめを出し大きくなったところ、王子さまがとおりかかり、そのことばをよみました。

『みずとはなんじゃ？』

かこさとし/作 鈴木まもる/絵
小峰書店 2018年



かがくの本

かわいたみちにまいた水が、やがて見えなくなりました。どこへいったのでしょうか？ 人やどうぶつの中からの中にも、水があるってほんとうでしょうか？ いきものやちきゅうにとってだいじな、水のしくみがわかるえほんです。

『ものぐさトミー』

ペン・デュボア/文・絵 松岡享子/訳
岩波書店 1977年



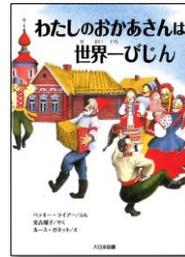
ものがたりの本

なまけもののトミーは、でんきじかけのいえにすんでいます。じぶんはなにもしなくても、きかいがからだをあらい、はをみがき、ごはんをたべさせてくれます。ある日、でんきがとまり、きかいがうごかなくなっていました。

『わたしのおかあさんは』

『世界一びじん』

ベッキー・ライアー/ぶん 光吉郁子/やく
ルース・ガネット/え 大日本図書 2010年



ものがたりの本

むぎかりのひ、まいごになったワリーヤは、おとうさんやおかあさんの名まえをきかれ、なきながらいいました。「わたしの おかあさんは、世界一 びじん！」。そこで、村中からびじんのおかあさんがよびあつめられました。



そのほかのおすすめの本

ほん



『おおかみと七ひきのこやぎ グリム童話』

グリム/原作 フェリクス・ホフマン/え せたていじ/やく
福音館書店 1967年

【ものがたりの本】

『チムとゆうかなせんちょうさん』

エドワード・アーディゾーニ/さく せたていじ/やく
福音館書店 2001年

【ものがたりの本】

『どろんこぶた』

アーノルド・ローベル/作 岸田衞子/訳
文化出版局 1971年

【ものがたりの本】

『歯いしゃのチュー先生』

ウィリアム・スタイグ/ぶんとえ うつみまお/やく
評論社 1991年

【ものがたりの本】

『目でみることばのずかん』

おかべたかし/文 やまでたかし/写真 東京書籍 2016年

【しゃかいの本】

『りんごかもしれない』

ヨシタケシンスケ/作 ブロンズ新社 2013年

【ものがたりの本】

いいね!の本だな ~小学校1・2年生編~



発行日 令和4年3月20日

編集・発行 **山梨県立図書館**

YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

〒400-0024

甲府市北口2丁目8番1号

T E L 055-255-1040

F A X 055-255-1042

U R L <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この冊子に関するお問い合わせ先

山梨県子ども読書支援センター（山梨県立図書館内）



- * 当館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。
- * 本冊子は個人的な目的に使用する以外で複写・転載することはお控えください。
- * 学校（小・中・高・特別支援）でのプリントアウト・コピー・無料配布が可能です。（改変・切除はご遠慮ください。）